

どうしたら幼児連れでオリエンテーリングを楽しめるだろうか？ 大会から疎遠になっている人にまた足を運んでもらうにはどうしたらよいだろう？

それは立ち話から始まった

都協会が運営協力した某イベントでパパ3人で何気なく交わした「子連れで集まって、ゆるーいイベントやろうよ」という話がトントントンと進み、約1ヶ月後に「子持ちオリエンティアのための親睦会」を開催することになりました。

こんなコンセプトで

1. 子供達に楽しんでもらおう！
2. 奥様にリラックスしてもらおう！
3. 子育てに忙しく最近見かけない人にも来てもらおう！
4. まあ、パパ達も少しは走らせてね！（もちろんママもどうぞ！）

OLをメインに持ってこず、あくまでも添え物にしておくところがミソです。

参加対象を「未就学児を含む親子(2-4歳児がメインターゲット)」として都協会のメーリングリストに流して(後日OL-MLにも流した)参加者を募ったところ、9家族・33人のエントリーがありました。

子供たちの笑顔、笑顔

急に来れなくなってしまった家族もあり、結局7家族・26人が野川公園に集まりました。子連れなのでドタキャンがでるのは想定範囲内、遅刻者続出なのも想定範囲内。あくまでも、ゆるーく、ゆるーくです。

とは言え、オリエンテーリングの部分は妥協なく本気？になります。パパ&ママ向けのコースは、本格的なコースを用意しました。ただし、設置・撤収の不要なバーチャル・コントロールです(つまりフラッグなしです)。ロングコースはウイニングで20分ほど、ちょっと長かったかな。

パパが走り終わったら、ママが走り出します。その間、子供たちはパパと

キッズ0です(ママが走らないファミリーは家族でキッズ0)。距離は740mで10コントロール。2-3歳児には少々長いかな？という話もあったのですが、ふたを開けてみれば全く問題なく、ちょうど良い長さでした。子供たちには名前の書いてあるコントロールカードとゴム紐を支給しました。子供はこれだけでも嬉しいものです。スタート前から楽しそう。コントロールにあるシールを自分でCCに貼っていきます。シールは当初、味気のない丸いシールの予定だったのですがお菓子やらケーキやらといったかわいいシールにしたのも良かったようです。コースはほとんど次のコントロールが見えるくらいの状況でした。まだ地図の読めない子供たちも親と一緒に(あるいは親より先に!)コントロールに駆けていました(終わった後2周目に出かけている親子もいました)。



その後はシートを広げてみんなでお弁当タイム。みんな同じくらいの子供いるので悩みを共有できるという感じでしょうか。いつもよりスムーズに食事してくれた気がします。

調布飛行場に隣接しているので、着陸してくる飛行機が良く見えます。飛行機が飛んでくる度に子供たちは大喜びでした。

食べ終わったところで、「子供たちにパパやママが走っているところを見せる」という高尚な？目的のエキシビジョンレース。1周700mほどのバタフライコースを夫婦リレーまたはパパが2周で回しました。子供の声援を受けながら走るのとはなかなか新鮮でした。

OLはほどほどにして

子供用のフラッグを撤収して水遊びのできる公園北部の湧き水広場へ移動です。ここはハケ(国分寺断崖)から湧き出るきれいな水の隠れた水遊びス

ポットです。2、3歳ともなるとそれぞれにいろいろと遊ぶものです。ペットボトルでもコップでも一つあると遊びが広がりますね。大人たちも火照った体をクーリングダウン。



小一時間遊んだところで、スイカ割りです。さすがに3歳児がルールを理解するのは難しく、いつの間にか「スイカいじめ」になっていましたが(笑)

また陣地を片づけて少し移動です。今度は遊具エリアです。赤ちゃんはオヤスミ、ママは休憩でしたが、子供たちはまだまだ元気、ひたすら走りまわっていました。4時前後から用事がある(or 疲れた)親たちがまだまだ遊びたい子供たちを遊具から「引き剥がして」流れ解散...最終的に4時半ごろに完全撤収となりました。

1日中思う存分走りまわったうちの娘は寝かしつけする間もなく夢の世界へ。なかなか子供と一緒に遊んであげられないので親にとっても良い機会でした。参加者の評価は上々で、ぜひまたやろう！という声が多かったので同様のイベントを継続していければと思います。3-6歳の未就学児を持つ親が核になって運営し、だんだん下の世代に運営を委譲していければ良いと思います。

公園で開催されるスプリントの大会もレース後にこういったイベントが併設されるようになれば、家族連れでの参加が増えるのではないかなと思います。僅か15-20分のレースのために出かけるのは億劫でも、それが家族参加型イベントになるのであれば参加しやすいのではないのでしょうか。特に何かを用意しなくても、「子連れ集まれ！一緒に遊ぼう」という呼びかけが大会の要綱にあれば、それだけでもずいぶん違うんじゃないかなと思います。



大会参加者を増やすために

参加したいのに参加できない、あるいは大会に参加する意欲をなくしている子持ちオリエンティアは少なくないと思います。以下、家族連れでの参加を増やすためにはどうすればいいかというヒントを書いてみたいと思います。(単なるグチと願望?)

子供連れだと朝早く動くのが何かと大変です。ちゃんと起床したとしても出発までには紆余曲折があるわけで... 出発が遅れば渋滞の洗礼もあったりして... おしっこ、おなかすいたぁーと会場に着くころには心身ともに疲れていたりします。そんな思いをしながら会場に連れて行っても、(親に付き合わされている) 子供はちっとも楽しくないわけです。(小学校に上がるくらいになれば状況は好転すると思いますが...)

おまけにベビーカーやら毛布やら、子供が小さいといろいろと荷物が増えます。

電車・バスの乗り換えも大変ですが、車で行っても駐車場が遠ければやはり何かと苦労することになります。

じゃあ、子供は家に置いていけば... というわけにもいかないのが実情です。残された奥さんは「休日くらい子供の面倒みてよ!」と思うでしょうし、子供も「休日くらいはパパと遊びたい!」と思うでしょう。

夫婦共にオリエンティアの場合もスタート時刻の兼ね合いで片方が出走を断念したり、ショートカットしてゴールに向かったり、大幅遅刻で出走したり... という苦行を強いられています。行くも地獄、走るも地獄... そりゃ、だんだんと大会に出てくるのが億劫にもなろうというものです。

何かと荷物の多い未就学児連れの場合、駐車場はハンディキャッパーと同じく、会場最寄りの場所に優先的に割り当ててもらえると嬉しいですね。バス乗車を強いられたり、会場前乗降不可とされてしまうとそれだけで参加が難しくなってしまいます。せっかくエントリーしていても「たったこれだけの理由で」参加自体を取りやめてしまうケースも存在するのです。

大会参加の一番のハードルは託児です。幼児コーナー、キッズ 0 が用意されていても、確実に子供を見てくれる人が確保できなければハードルは解消されません。もしかしたら、誰かが見ていてくれるかもしれないけれど、現地に行ってから可否を確認するのは安心して参加できません。要綱の段階で、託児が可能かどうかわかれば出場する大会を選択する上で大いに助けとなります。多くは求めません、有料であれ無料であれ、親が走っている間、安全に誰かが目を配ってくれさえすればいい(実はそれが大変なことなんです...)。この問題を解決できればそれなりに参加者増に結び付くと思います。(あるいは夫婦の片方が会場に残れるスタート時刻指定が保証されていれば問題ありません)

託児が難しいのであればスタートの時間に配慮もお願いしたいところです。両親ともに競技参加したい場合は子供のバトンタッチができるようにできる限り離れたスタート時刻を割り当てて欲しいものです。前述しましたが、せっかく 2 人ともエントリーしていながら片方が出走を断念したり、完走をあきらめショートカットしてゴールするとか、大幅な遅刻スタートをするケースが多数存在しています。

親が 1 人しか走らない場合でも事情を斟酌して希望に応じで早いスタート・遅いスタートくらいの希望は言えるようになれば良いですね。この件は、子連れに限らず、参加者全体に対して良いサービスではないでしょうか? 遠方から来るので遅くしてほしい、近くに泊っているので早くしてほしい、遠隔地に帰るので早くしてほしい、移動の都合上、家族のスタート時刻を離さないでほしい... いろいろなニーズがあると思います。競技規則では、競技の公正さを保つためにスタート時刻は無作為に決定されることになっていますが、(少なくとも) 選手権クラスと資格獲得に関係するクラス以外は柔軟に対応していくべき時代ではないでしょうか?

例えば早い時間帯希望と遅い時間帯希望それぞれで抽選すれば「無作為」と言っても差し支えないのではないのでしょうか?

「こども」の宿泊費というのも盲点です。中学生くらいになれば大人と同額になるのもやむを得ないところですが、小学生や幼児、乳児の扱いが日本の宿泊施設はマチマチで、かつ一般にハードな条件を強いられています。海外だったら両親に添い寝する小学生は無料のケースが多いのに、日本では幼児でも大人とそう変わらない料金を請求されてしまうので泊りがけでの参加が難しくなってしまう側面もあります。家族向けの宿泊パックのようなものの斡旋があれば、かなり泊りがけ参加のハードルが低くなります。宿泊前提のイベントではぜひ検討していただきたいポイントです。

最近、若いクラスに二世選手が散見されるようになってきましたが 10 年後、20 年後を見据えて「こども支援」を強化していくことが必要ではないかと思う次第です、

今の私は幼児の父親という立場です。ので、我田引水・わがままな主張と見られてしまうかもしれませんが、父親という立場になってみて初めてわかる「大会参加のハードル」をぜひ皆さんにも知っていただければと思います。あらゆるハードルを下げ、「参加者に優しい大会」をめざすことが、参加者増・大会増の Win-Win につながるのではないかと思います。

会場で小さい子供を見かけたら温かく見守って下さい。いけないことをしていたら遠慮なく叱って下さい。どうぞよろしくお願いします。

(菅原 琢)